

## 山中饒舌

僕の胸の中にはもう一人の僕がゐます  
木の葉のあひだから僕の横顔がみえます  
見てみると その人の胸の中にも  
別の僕があるのがわかるのです  
その彼はふみしめた足の下の方の谷川の流れを眺めてゐます  
山腹の紅葉しはじめてゐる木を見つけたやうです  
はるか彼方に小さいいくつかの瀧を見つけたやうです  
ああ 山全体がゆれはじめました  
はげしい風が吹きはじめました  
不安を感じたのか 彼は空を見上げるそぶりをしてゐます  
未来は不安なものであるのか  
瀧の音がとめどなくとどろくやうにひびいて来ます  
その彼が歩きはじめました  
木の葉のあひだをもう一人の僕も歩きはじめました  
僕は 最後に さうした自分たちを胸の中に抱きながら  
青い岩石の乱れてゐる道を登つて行きます